

エピソード13

子どもが連絡なく欠席し、
心配しました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテータです。



小学校の先生の経験を紹介します。

私が40代の頃の経験です。そらさんは、とても元気で明るい中学年の女の子です。

お友だちもたくさんいるそらさんが、ある日、突然、連絡なしで欠席しました。





先生は、その時どうしたのですか。

前日まで元気に登校していたので
とても心配しました。それで、
そらさんのお家に電話をしました。

そらさんのお家は、子ども4人とお母さんの
5人暮らしです。お母さんが近所のスーパーで
パートをして、子どもを育てていました。





先生が電話をすると、お母さんは
どんなことを話してくれたのですか。

経済的に苦しくてお金を借りていること、貸した
人が強い口調でお金を返すよう言った場面を、
そらさんが見ていたことを話してくれました。

そらさんは、自分が学校に行っている間に
またその人が来るのではないかと心配になり、
学校に行けなくなったのです。





保護者からの話を聞いて、
先生はどうしたのですか。

私は、教頭先生に事情を話して、
家庭訪問をすることにしました。

そらさんのお家を訪ねて「お母さんは大丈夫
だから安心して学校に行こう」と話しました。
そらさんは、次の日から登校を再開しました。





その後、そらさんや保護者との関係で変わったことはありませんか。

お母さんから「お金を払わないと、子どもたちに心配をかけてしまうので、お金を貸してください」と電話がありました。

私は「お金を貸すことはできません」と伝えて、市役所の福祉窓口を紹介しました。





先生はその時、
どんな思いだったのですか。

貸すお金がなかったのではありません。
ちょっと冷たいかなと思ったし、相手が
助かるならお金を貸すこともできました。

でも、貸すことではお母さんは
何も乗り越えられない、別の方法を
考えてほしいと思ったんです。





先生は保護者に、どんな願いを
持っていたのですか。

お母さんが意識を変えることで
子どもも安心できる、と思ったのです。

人にお金を借りる方法ではなく、
福祉等の力を借りることで頑張ってほしい
と思う気持ちがありました。





なみちゃんの一言

- 子どもは、家庭が安心して生活できる場であることが、とても大切なのですね。
- 子どもを育てながら生活していくことは、とても大変なことです。でもいろいろな相談機関や支援機関があります。SSWを通して、そのような機関と繋ぐことも、教師には必要なかもしれません。

※SSW=スクールソーシャルワーカー

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)